

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6778000号
(P6778000)

(45) 発行日 令和2年10月28日 (2020. 10. 28)

(24) 登録日 令和2年10月13日 (2020. 10. 13)

(51) Int. Cl. F 1
E O 4 H 1/02 (2006. 01) E O 4 H 1/02

請求項の数 8 (全 18 頁)

(21) 出願番号	特願2016-33726 (P2016-33726)	(73) 特許権者	307042385
(22) 出願日	平成28年2月25日 (2016. 2. 25)		ミサワホーム株式会社
(65) 公開番号	特開2017-150229 (P2017-150229A)		東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
(43) 公開日	平成29年8月31日 (2017. 8. 31)	(74) 代理人	100090033
審査請求日	平成31年2月1日 (2019. 2. 1)		弁理士 荒船 博司
		(72) 発明者	三原 謙一
			東京都新宿区西新宿2丁目4番1号 ミサワホーム株式会社内
		審査官	松本 隆彦

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

屋根の下方に設けられ、屋内空間と屋外空間との中間領域となり、かつ正面側の屋外空間との間に遮蔽物が無い中間領域部を備えた建物において、

建物本体は、床面の高さ位置が異なる複数の層に分かれるとともに、これら複数の層のそれぞれに部屋が配置された状態に構成され、

前記複数の層のうち最も低い層である第一層には、

天井が、基準となる第一天井高さ位置に設定された第一部屋と、

前記中間領域部及び前記第一部屋に隣接するとともに、天井が、前記第一天井高さ位置よりも高い第二天井高さ位置に設定された第二部屋と、

前記中間領域部及び前記第一部屋に隣接するとともに、天井が、前記第一天井高さ位置と前記第二天井高さ位置との中間付近である第三天井高さ位置に設定された第四部屋と、が配置され、

前記中間領域部と前記第四部屋は建物の間口方向に隣接し、前記中間領域部と前記第二部屋は建物の奥行き方向に隣接し、前記第四部屋と前記第一部屋は奥行き方向に隣接し、前記第一部屋と前記第二部屋は建物の間口方向に隣接しており、

前記第三天井高さ位置は、3.0メートル前後に設定されており、

前記複数の層のうち前記第一層よりも床面の高さ位置が高い第二層には、前記中間領域部との間に前記第二部屋を挟んだ状態で前記第二部屋に隣接するとともに前記第二部屋と前記天井を共有する第三部屋が設けられ、

10

20

前記第三部屋のうち前記第二部屋側の縁部には、上端部が天井に達しない高さに設定され、かつ前記第二部屋と前記第三部屋とを仕切る手摺壁が設けられ、前記第三部屋には、前記手摺壁に沿って机が設置されており、

前記中間領域部は、床面の高さ位置が前記第一層と略等しく設定されるとともに、天井が、前記第三天井高さ位置に設定され、

前記中間領域部には、

前記中間領域部と前記第二部屋との間に位置する外壁である第一壁と、

前記中間領域部と前記第四部屋との間に位置するとともに前記第一壁と直交する外壁である第二壁と、

前記第二壁とは反対側に位置するとともに前記屋根を支持する屋根支持部と、が設けられ、

前記第一壁のうち前記第二壁側は、窓の無い状態で屋内空間と屋外空間とを隔てる第一仕切壁部とされ、

前記第一壁のうち前記第一仕切壁部ではない箇所には、前記中間領域部の床面から天井までの高さ寸法と略等しい高さ寸法に設定されて屋内空間と屋外空間とを連通する第一開口部が形成されており、

前記第二壁のうち前記第一壁と共に形成する入隅部側の端部には、前記中間領域部の床面から天井までの高さ寸法と略等しい高さ寸法に設定されて屋内空間と屋外空間とを連通する第二開口部が形成され、

前記第二壁のうち前記第二開口部が無い部分は、窓の無い状態で屋内空間と屋外空間とを隔てる第二仕切壁部とされており、

前記第一壁における前記第一仕切壁部と、前記第二壁における前記第二仕切壁部と、前記屋根支持部と、は耐力壁であり、

前記第一開口部の上端部には、ガラス窓である嵌め殺し窓が取り付けられ、当該嵌め殺し窓の下方には、ガラス窓である掃き出し窓が取り付けられており、

前記第二開口部の上端部には、ガラス窓である嵌め殺し窓が取り付けられ、当該嵌め殺し窓の下方には、ガラス窓である掃き出し窓が取り付けられており、

前記手摺壁と前記第一開口部における前記嵌め殺し窓とが、前記第二部屋の上方空間を介して対向し、前記第一開口部における前記嵌め殺し窓の上端部は、前記手摺壁の上端部よりも上方に位置していることを特徴とする建物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の建物において、

前記屋根支持部は前記第一壁から離間して配置され、これら屋根支持部と第一壁との間は、前記屋外空間から前記第一開口部に向かって光を差し込ませるための採光部とされていることを特徴とする建物。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の建物において、

前記第二開口部と前記採光部は、互いに向き合うようにして配置されていることを特徴とする建物。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の建物において、

前記第二層には、前記手摺壁と直交して配置されるとともに前記屋外空間に面する第三壁が設けられ、

前記第三壁には、前記屋外空間から前記屋内空間に向かって光を差し込ませるための第三開口部が形成されていることを特徴とする建物。

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の建物において、

前記屋根のうち前記第三部屋の上方に位置する箇所に天窓が形成されていることを特徴とする建物。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の建物において、

前記第二層には、前記手摺壁と平行して配置されるとともに前記屋外空間に面する第四壁が設けられ、

前記第四壁には、前記第一開口部と対向する位置関係となる第四開口部が形成されていることを特徴とする建物。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の建物において、

前記第一壁の幅寸法は、前記建物本体の間口寸法における少なくとも略半分を占める長さに設定され、

前記第二壁の幅寸法は、前記第一壁の幅寸法の略半分の長さに設定されていることを特徴とする建物。

【請求項 8】

平屋であることを特徴とする請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、住宅等の建物に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、建物本体のコーナー部に、庭に面したテラスを配置した住宅等の建物に係る技術が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

このような建物においては、テラスが、隣接する複数の部屋のそれぞれに対して出入口となる窓を介して隣接している。そのため、隣接する複数の部屋のそれぞれとテラスとの間を自由に出入りできるようになっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2002-174038 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、近年、建物に対する、テラスやピロティのような屋内空間と屋外空間とをつなぐ中間領域部が占める割合を高くし、これによって建物の開放感を高めたいという要望がある。

そこで、例えばテラス等の中間領域部の幅や奥行きを広くすることが考えられるが、単に幅を広げただけでは中間領域部への雨の浸入を防ぎにくく、単に奥行きを広くしただけでは屋内空間への採光がしにくくなるという問題がある。

【0005】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、中間領域部への雨の浸入を抑えるとともに採光性を確保し、開放感を高めることが可能な建物を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

請求項 1 に記載の発明は、例えば図 1 ～ 図 7 に示すように、屋根 3 の下方に設けられ、屋内空間と屋外空間との中間領域となり、かつ正面側の屋外空間との間に遮蔽物が無い中間領域部 4 を備えた建物 1 において、

建物本体 2 は、床面の高さ位置が異なる複数の層 A、B、C に分けられるとともに、これら複数の層 A、B、C のそれぞれに部屋が配置された状態に構成され、

前記複数の層 A、B、C のうち最も低い層である第一層 A には、

天井 16 が、基準となる第一天井高さ位置 D に設定された第一部屋 7a と、

前記中間領域部 4 及び前記第一部屋 7a に隣接するとともに、天井 15 が、前記第一天

10

20

30

40

50

井高さ位置Dよりも高い第二天井高さ位置Eに設定された第二部屋7bと、

前記中間領域部4及び前記第一部屋7aに隣接するとともに、天井が、前記第一天井高さ位置Dと前記第二天井高さ位置Eとの中間付近である第三天井高さ位置Fに設定された第四部屋8（和室8）と、が配置され、

前記中間領域部4と前記第四部屋8は建物1の間口方向に隣接し、前記中間領域部4と前記第二部屋7bは建物1の奥行き方向に隣接し、前記第四部屋8と前記第一部屋7aは奥行き方向に隣接し、前記第一部屋7aと前記第二部屋7bは建物1の間口方向に隣接しており、

前記第三天井高さ位置Fは、3.0メートル前後に設定されており、

前記複数の層A、B、Cのうち前記第一層Aよりも床面の高さ位置が高い第二層Bには、前記中間領域部4との間に前記第二部屋7bを挟んだ状態で前記第二部屋7bに隣接するとともに前記第二部屋7bと前記天井15を共有する第三部屋11が設けられ、

前記第三部屋11のうち前記第二部屋7b側の縁部には、上端部が天井15に達しない高さ設定され、かつ前記第二部屋7bと前記第三部屋11とを仕切る手摺壁14が設けられ、前記第三部屋11には、前記手摺壁14に沿って机が設置されており、

前記中間領域部4は、床面4aの高さ位置が前記第一層Aと略等しく設定されるとともに、天井4bが、前記第三天井高さ位置Fに設定され、

前記中間領域部4には、

前記中間領域部4と前記第二部屋7bとの間に位置する外壁である第一壁21と、

前記中間領域部4と前記第四部屋8との間に位置するとともに前記第一壁21と直交する外壁である第二壁22と、

前記第二壁22とは反対側に位置するとともに前記屋根3を支持する屋根支持部25と、が設けられ、

前記第一壁21のうち前記第二壁22側は、窓の無い状態で屋内空間と屋外空間とを隔てる第一仕切壁部21bとされ、

前記第一壁21のうち前記第一仕切壁部21bではない箇所には、前記中間領域部4の床面4aから天井4bまでの高さ寸法と略等しい高さ寸法に設定されて屋内空間と屋外空間とを連通する第一開口部21aが形成されており、

前記第二壁22のうち前記第一壁21と共に形成する入隅部側の端部には、前記中間領域部4の床面4aから天井4bまでの高さ寸法と略等しい高さ寸法に設定されて屋内空間と屋外空間とを連通する第二開口部22aが形成され、

前記第二壁22のうち前記第二開口部22aが無い部分は、窓の無い状態で屋内空間と屋外空間とを隔てる第二仕切壁部22bとされており、

前記第一壁21における前記第一仕切壁部21bと、前記第二壁22における前記第二仕切壁部22bと、前記屋根支持部25と、は耐力壁であり、

前記第一開口部21aの上端部には、ガラス窓である嵌め殺し窓が取り付けられ、当該嵌め殺し窓の下方には、ガラス窓である掃き出し窓が取り付けられており、

前記第二開口部22aの上端部には、ガラス窓である嵌め殺し窓が取り付けられ、当該嵌め殺し窓の下方には、ガラス窓である掃き出し窓が取り付けられており、

前記手摺壁14と前記第一開口部21aにおける前記嵌め殺し窓とが、前記第二部屋7bの上方空間を介して対向し、前記第一開口部21aにおける前記嵌め殺し窓の上端部は、前記手摺壁14の上端部よりも上方に位置していることを特徴とする。

【0007】

請求項1に記載の発明によれば、屋内空間と屋外空間との中間領域となる中間領域部4は、屋根3の下方に設けられているので、住人は、この中間領域部4を屋内空間の延長部のような感覚で利用することができる。そのため、屋内空間と屋外空間との間を行き来しやすくなり、屋内空間と屋外空間とが、あたかも一続きの空間であるかのような印象を与えることができるので、開放感を高めることができる。

また、第一壁21には、第一層Aと略等しい高さ位置に設定された床面4aから、第一天井高さ位置Dと第二天井高さ位置Eとの中間付近である第三天井高さ位置Fに設定され

10

20

30

40

50

た天井４ｂまでの高さ寸法と略等しい高さ寸法に設定された第一開口部２１ａが形成されているので、高さ寸法のある窓開口を確保できるとともに、中間領域部４と第二部屋７ｂとの間から、例えば垂れ壁のように目線の上にある壁を無くすることができる。これにより、例えば高さ寸法の低い開口に比して採光性を高めることができるので、その分、第一壁２１の位置を奥まった位置に寄せて配置することができる。そのため、中間領域部４の奥行きを広く確保することができるので、中間領域部４への雨の浸入を抑えるとともに採光性を確保でき、中間領域部４を利用する人に対して開放感を与えることができる。さらに、このような高さ寸法のある第一開口部２１ａによれば、中間領域部４や第二部屋７ｂにいる人への圧迫感を少なくすることができるとともに、視線を遮るものを少なくすることができるので、開放感を高めることができる。

10

また、手摺壁１４と第一開口部２１ａとが、第二部屋７ｂの上方空間を介して対向し、第一開口部２１ａの上端部は、手摺壁１４の上端部よりも上方に位置しているので、第一開口部２１ａを介して第三部屋１１から屋外空間を見ることができる。そのため、第二部屋７ｂから屋外空間を見た時の開放感を高めることができるだけでなく、第二層Ｂに配置された第三部屋１１から屋外空間を見た時にも開放感を高めることができる。

【０００８】

請求項２に記載の発明は、例えば図１～図４に示すように、請求項１に記載の建物１において、

前記屋根支持部２５は前記第一壁２１から離間して配置され、これら屋根支持部２５と第一壁２１との間は、前記屋外空間から前記第一開口部２１ａに向かって光を差し込ませるための採光部２５ａとされていることを特徴とする。

20

【０００９】

請求項２に記載の発明によれば、屋根支持部２５は第一壁２１から離間して配置され、これら屋根支持部２５と第一壁２１との間が、屋外空間から第一開口部２１ａに向かって光を差し込ませるための採光部２５ａとされているので、たとえ第一壁２１が中間領域部４における奥まった位置に設けられた場合であっても、第二壁２２とは反対側に位置する採光部２５ａから第一開口部２１ａへの採光を確保しやすい。すなわち、屋外空間の光を、採光部２５ａおよび第一開口部２１ａを介して屋内空間に差し込ませることができるので、屋内空間への採光性を向上させることができる。

【００１０】

30

請求項３に記載の発明は、例えば図２，図４，図６に示すように、請求項２に記載の建物１において、

前記第二開口部２２ａと前記採光部２５ａは、互いに向き合うようにして配置されていることを特徴とする。

【００１１】

請求項３に記載の発明によれば、第二壁２２に形成された第二開口部２２ａと採光部２５ａは、互いに向き合うようにして配置されているので、採光部２５ａから中間領域部４側に差し込んだ光を、第二開口部２２ａを介して、第二開口部２２ａの屋内空間側にある部屋（和室８）にも差し込ませることができる。すなわち、屋外空間の光を、採光部２５ａおよび第二開口部２２ａを介して屋内空間に差し込ませることができるので、屋内空間への採光性をより向上させることができる。

40

【００１２】

請求項４に記載の発明は、例えば図４に示すように、請求項１～３のいずれか一項に記載の建物１において、

前記第二層Ｂには、前記手摺壁１４と直交して配置されるとともに前記屋外空間に面する第三壁２３が設けられ、

前記第三壁２３には、前記屋外空間から前記屋内空間に向かって光を差し込ませるための第三開口部２３ａが形成されていることを特徴とする。

【００１３】

請求項４に記載の発明によれば、手摺壁１４と直交する第三壁２３に形成された第三開

50

口部 2 3 a から屋内空間に向かって光を差し込ませることができるので、第三部屋 1 1 はもとより、第三部屋 1 1 における手摺壁 1 4 の上方空間を介して第二部屋 7 b 側にも採光を確保できる。

【0014】

請求項 5 に記載の発明は、例えば図 4, 図 6 に示すように、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の建物 1 において、

前記屋根 3 のうち前記第三部屋 1 1 の上方に位置する箇所に天窓 1 7 が形成されていることを特徴とする。

【0015】

請求項 5 に記載の発明によれば、屋根 3 のうち第三部屋 1 1 の上方に位置する箇所に天窓 1 7 が形成されているので、屋外空間の光を、天窓 1 7 から第三部屋 1 1 に差し込ませることができる。また、天窓 1 7 から差し込む光を、第三部屋 1 1 における手摺壁 1 4 の上方空間を介して第二部屋 7 b にも差し込ませることができる。そのため、屋内空間への採光性をより向上させることができる。

さらに、第一開口部 2 1 a から天窓 1 7 に向かって、またはその逆方向に風を通り抜けさせることができるので、屋内空間における通風性を向上させることができる。そのため、中間領域部 4 および屋内空間における開放感の向上に貢献できる。

これによって、屋内空間における居住の快適性をより向上させることができる。

【0016】

請求項 6 に記載の発明は、例えば図 4, 図 6 に示すように、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の建物 1 において、

前記第二層 B には、前記手摺壁 1 4 と平行して配置されるとともに前記屋外空間に面する第四壁 2 4 が設けられ、

前記第四壁 2 4 には、前記第一開口部 2 1 a と対向する位置関係となる第四開口部 2 4 a が形成されていることを特徴とする。

【0017】

請求項 6 に記載の発明によれば、第四壁 2 4 には、第一開口部 2 1 a と対向する位置関係となる第四開口部 2 4 a が形成されているので、第四開口部 2 4 a から第一開口部 2 1 a 側、すなわち第三部屋 1 1 および第二部屋 7 b への採光を確保できる。さらに、第一開口部 2 1 a から第四開口部 2 4 a に向かって、またはその逆方向に風を通り抜けさせることができるので、屋内空間における通風性をより向上させることができる。

【0018】

請求項 7 に記載の発明は、例えば図 1 ~ 図 4, 図 6 に示すように、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の建物 1 において、

前記第一壁 2 1 の幅寸法は、前記建物本体 2 の間口寸法における少なくとも略半分を占める長さに設定され、

前記第二壁 2 2 の幅寸法は、前記第一壁 2 1 の幅寸法の略半分の長さに設定されていることを特徴とする。

【0019】

請求項 7 に記載の発明によれば、第一壁 2 1 の幅寸法は、建物本体 2 の間口寸法における少なくとも略半分を占める長さに設定されているので、建物 1 全体において中間領域部 4 が占める割合を大きくすることができる。したがって、この中間領域部 4 を、住人に対して、単に建物 1 の一画に過ぎないという印象ではなく、その場に居つくことのできる住空間の一つとして印象付けることができる。

さらに、第二壁 2 2 の幅寸法は、第一壁 2 1 の幅寸法の略半分の長さに設定されているので、第二壁 2 2 と直交する第一壁 2 1 の位置を、屋内空間側に寄せて設けることができる、中間領域部 4 の奥行きを屋内空間側に深くすることができる。これによって、中間領域部 4 内を雨に濡れにくい空間とすることができるので、屋内空間の延長部として居心地よくすることができる。また、雨天時に洗濯物を干すスペースとしても利用できる。さらに、夏場には屋根 3 によって日差しを遮りながら、第一開口部 2 1 a から屋内空間に風を取り

10

20

30

40

50

込むことができるので、屋内空間における居住環境を快適にすることができる。つまり、中間領域部 4 および屋内空間における居住の快適性を向上させることができる。

【0020】

請求項 8 に記載の発明は、例えば図 1 ～図 7 に示すように、請求項 1 ～7 のいずれか一項に記載の建物 1 が平屋であることを特徴とする。

【0021】

請求項 8 に記載の発明によれば、建物 1 が平屋であるため、斜線制限等の法令に基づく高さ制限を過剰に気にすることなく、屋内空間における天井高を高くすることができる。そして、屋内空間の天井高を高くするのに伴って、第一開口部 2 1 a の高さも高くすることができるので、天井高が低いことによる圧迫感を軽減でき、開放感を高めることができる。

10

また、周辺住宅が複数階建てである場合には、周辺住宅の上階側から中間領域部 4 への視線を屋根 3 によって遮ることができるので、中間領域部 4 におけるプライバシーを確保できる。

【発明の効果】

【0022】

本発明によれば、中間領域部への雨の浸入を抑えるとともに採光性を確保し、開放感を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

20

【図 1】中間領域部を備えた建物を正面側から見た場合の斜視図である。

【図 2】中間領域部を右側面側から見た場合の斜視図である。

【図 3】中間領域部を備えた建物の正面図である。

【図 4】中間領域部を備えた建物の断面図である。

【図 5】中間床の下方に形成された収納部を示す拡大断面図である。

【図 6】図 4 に示す建物の VI-VI 線縦断面図である。

【図 7】図 4 に示す建物の VII-VII 線縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0024】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。ただし、以下に述べる実施形態には、本発明を実施するために技術的に好ましい種々の限定が付されているが、本発明の技術的範囲を以下の実施形態および図示例に限定するものではない。

30

【0025】

図 1 において符号 1 は、建物を示す。この建物 1 は平屋の住宅であり、屋内空間に複数の部屋が配設された建物本体 2 と、この建物本体 2 の上に構築される屋根 3 と、を備える。

なお、屋根 3 は、図 6、図 7 に示すように、招き屋根の形状に近い切妻屋根、または切妻屋根の形状に近い招き屋根であり、南向きの屋根面が北向きの屋根面よりも広く設定されている。当該南向きの屋根面には、図 3 に示すように、太陽電池アレイ 3 a が設置されている。

40

【0026】

建物本体 2 は、図 4 ～図 7 に示すように、床面の高さ位置が異なる複数の層 A、B、C に分けられるとともに、これら複数の層 A、B、C のそれぞれに部屋が配置された状態に構成されている。

これら複数の層 A、B、C における最下層は第一層 A であり、建物本体 2 における大部分を占めている。第一層 A よりも高い層は第二層 B であり、後述する中間部屋 1 1 が設けられる。第二層 B よりも高い層は第三層 C であり、後述するロフト 9 a が設けられる。なお、第二層 B および第三層 C は、建築基準法上、床面積に算入されない広さ（面積・天井高）で設計されている。すなわち、建物 1 は、平屋建てでありながら、上下三層に分かれて構成された状態となっている。

50

また、後述するが、建物本体 2 に設けられた各部屋は、その天井の高さ位置（D～H）が複数種類に設定されている。

さらに、建物本体 2 は、図 1～図 4 に示すように、南向きの正面側が雁行型に形成されている。より具体的には、間口寸法における西側の略半分に相当する部位が、東側の略半分に相当する部位に対して前方に突き出した状態となっている。

【0027】

建物本体 2 正面における東側の略半分に相当する部位は、屋内空間と屋外空間との中間領域となる中間領域部 4 とされている。この中間領域部 4 は、所謂テラスであり、建物本体 2 における南東のコーナー部に位置するとともに屋根 3 の下方に設けられている。

中間領域部 4（テラス）の床面はウッドデッキからなる床 4 a によって構成されている。この床 4 a は、中間領域部 4 の床面だけでなく、上記の西側半分に相当する部位の屋内空間に配置される和室 8（後述する）の屋外空間側と、建物本体 2 の東側にも延出して設けられている。このような床 4 a の屋外空間側の先端部は、図 6，図 7 に示すように、屋根 3 のうち南側の部分における軒先部の突端よりも、やや建物本体 2 側に位置している。

さらに、中間領域部 4 の床面（床 4 a の上面）の高さ位置と、建物本体 2 の屋内空間のうち正面側に配置される各部屋の床面の高さ位置とは略等しく設定されている。

また、中間領域部 4（テラス）の天井面は、屋根 3 の軒裏に水平に設けられた天井 4 b（軒天井）によって構成されている。

このような中間領域部 4 における天井高は、本実施形態では 3.0メートル前後に設定されている。建築基準法における居室の天井高は 2.1メートル以上とされており、中間領域部 4 は、それよりも 0.9メートル高く設定されているため、開放感のある状態となっている。

なお、後述するが、この中間領域部 4 の天井の高さ位置は、第三天井高さ位置 F に設定されているものとする。

【0028】

なお、中間領域部 4 とは、屋内空間と屋外空間との中間領域ではあるものの、あくまで屋外空間にあるスペースであり、屋根 3 の下方に設けられているとともに屋外空間に向かって開放された状態となっている。すなわち、中間領域部 4 は、屋内空間と屋外空間との中間領域となる屋根 3 下方の屋外スペースであり、住人が、屋内空間の延長部のような感覚で利用できるスペースを指している。

また、中間領域部 4 はこのように屋外空間であるため、本実施形態では、中間領域部 4 における床 4 a として、例えば上述のようなウッドデッキが採用されている。その他にも、中間領域部 4 における床として土間床を採用してもよい。すなわち、中間領域部 4 における床 4 a は、耐水性や耐候性に優れた素材が用いられるか、そのような加工が施されたものであることが望ましい。さらに、この中間領域部 4 における床 4 a には、屋内空間への水の浸入を防ぐための手段が講じられているものとする。

また、中間領域部 4 は、建物本体 2 のコーナー部に設けられているものとしたが、コーナー部とは、いわゆる建物の四隅だけに限られるものではなく、出隅や入隅の発生する箇所全般を指しているものとする。したがって、中間領域部 4 は、本実施形態で説明するような建物本体 2 の四隅に当たるコーナー部に設けられるだけでなく、例えば平面視略凹型に構成された建物本体の凹部に設けられてもよいものとする。

【0029】

建物本体 2 における正面側の部位のうち、前方に突き出した部位の西側の箇所に、玄関ポーチと玄関土間と玄関ホールとが南北方向に連続して形成された玄関 5 が配置されている。

【0030】

玄関 5 の北側には、トイレと洗面脱衣室と浴室とが南北方向に連続して形成されたサニタリースペース 6 が配置されている。

【0031】

玄関 5 の東側には、リビングルームとダイニングルームとキッチンルームの機能を一室

10

20

30

40

50

に併存させた居室7が、建物本体2の東側端部まで達する範囲に配置されている。

リビングルームとダイニングルームとキッチンルームとの間に明確な区切りはないが、リビングルームには、住人が寛ぐためのソファ等の家具が設置されている。ダイニングルームにはダイニングテーブルが設置され、キッチンルームには流し台等の調理設備が設置されている。

このような居室7は、ダイニングルームの中間付近を境にして西側と東側とで天井15、16の高さ位置が異なる。これら天井15、16の高さ位置が異なる領域のうち、天井16の高さ位置が、基準となる第一天井高さ位置Dに設定された領域を第一部屋7aと称し、天井15の高さ位置が、第一天井高さ位置Dよりも高い第二天井高さ位置Eに設定された領域を第二部屋7bと称する。

10

第一部屋7aは、居室7におけるキッチンルームおよびダイニングルームの一部を含んだ領域であり、床面から天井16までの高さである天井高は2.4メートル前後に設定されている。この天井高2.4メートルは、近年の住宅におけるリビングルーム等の一般的な天井高である。

第二部屋7bは、居室7におけるリビングルームおよびダイニングルームの一部を含んだ領域であり、床面から天井15までの高さである天井高は4.0メートル前後に設定されている。

また、これら第一部屋7aと第二部屋7bの床面は同一の高さに設定されている。

なお、第一部屋7aの天井16の高さ位置と、玄関5およびサニタリースペース6の天井の高さ位置は略等しく設定されている。すなわち、玄関5およびサニタリースペース6も第一天井高さ位置Dに設定されている。

20

【0032】

また、第一部屋7aの上方には、屋根裏空間を利用して、建物本体2の第三層Cであるロフト9aが形成されている。このロフト9aは、後述する中間部屋11から階段11cによって行き来することができる。

ロフト9aの天井の高さ位置は、第二部屋7bと略等しく設定されている。すなわち、第二天井高さ位置Eに設定されている。そして、床面から天井までの天井高は、0.8～1.4メートルに設定されている。

【0033】

第一部屋7aの南側の、建物本体2の雁行型に形成された部位に当たる箇所には、畳が敷かれた和室8が配置されている（和室8に代えて、サンルームやその他の部屋でもよい）。

30

和室8に敷かれた畳は、一辺が半畳分の長さに設定された正形状に形成されている。そして、その畳が、西側の押入れ収納を除く位置に9枚敷き詰められている。

また、この和室8の天井の高さ位置は、中間領域部4と同様に、第三天井高さ位置Fに設定されている。

また、この和室8の床面（畳の表面）の高さ位置と、第一部屋7aの床面の高さ位置は、図7に示すように略等しく設定されている。

さらに、和室8の屋外空間側には、中間領域部4側から連続する床4aが設けられており、開口部8aを通じて出入りできるようになっている。

40

なお、開口部8aは、後述する第一開口部21aと同程度の高さに形成されているものとする。

【0034】

第一部屋7aの北側には、主寝室9が配置されている。

主寝室9の床面の高さ位置と、第一部屋7aの床面の高さ位置は、図7に示すように略等しく設定されている。

また、この主寝室9の天井の高さ位置は、第二天井高さ位置Eよりも低く、第三天井高さ位置Fよりも高い第四天井高さ位置Gに設定されている。そして、床面から天井までの天井高は、3.5メートル前後に設定されている。

【0035】

50

第二部屋 7 b の北側には、上下二層に形成されたスペースがあり、その下層には収納部 1 0 が配置され、上層には、第二部屋である中間部屋 1 1 が配置されている。

収納部 1 0 の床面は、図 6 に示すように、建物本体 2 の第一層 A に配置された他の部屋の床面と略等しい高さに設定されている。

建物本体 2 の第一層 A における床のうち、収納部 1 0 が配置される箇所の床の上方に中間床 1 1 a が設けられており、この中間床 1 1 a の下方が収納部 1 0 とされ、上方が第三部屋 1 1 である中間部屋 1 1 とされている。

【0036】

収納部 1 0 は、建物本体 2 の床と中間床 1 1 a との間に設けられた物品収納用のスペースであり、天井の高さ位置は、第一天井高さ位置 D よりも低い第五天井高さ位置 H に設定されている。そして、床面から天井までの天井高が 0.8 m ~ 1.4 m の範囲で適宜変更可能である。この 0.8 m ~ 1.4 m の天井高とは、人が収納部 1 0 に入って、何とか作業ができる最低限の高さを確保するための高さ範囲であり、かつ、このように天井高を必要最小限に抑えることで、建物 1 の高さが高くなることによって隣接する建物に及ぼす日照減少等の影響を極力少なくすることができる高さ範囲である。

収納部 1 0 は、図 5 に示すように、第二部屋 7 b 側の出入口 1 0 a と、主寝室 9 側の出入口 1 0 b とから出入り可能となっている。

第二部屋 7 b 側の出入口 1 0 a は、可動収納家具 1 0 c によって開閉可能とされている。この可動収納家具 1 0 c は、第二部屋 7 b と収納部 1 0 との間に設けられた壁 1 0 d の収納部 1 0 側面に沿ってスライド可能に構成されている。また、この可動収納家具 1 0 c は箱型に形成され、第二部屋 7 b 側から物品の出し入れが可能となっている。

【0037】

第三部屋 1 1 である中間部屋 1 1 は、建物本体 2 の第二層 B に設けられる領域であり、上述のように、収納部 1 0 の上方に配置されるため、第二部屋 7 b 等がある第一層 A の各部屋よりも半階高い位置に配置され、第一部屋 7 a のダイニングルームから中間床 1 1 a に設けられた階段 1 1 b を通じて行き来できる。

また、中間部屋 1 1 は、建物本体 2 の北東におけるコーナー部に位置しており、仕切壁によって南側と北側に仕切られている。

中間部屋 1 1 における南側のスペースは、住人全員が利用できる共有スペース 1 2 とされている。また、北側のスペースは、例えば子供が使用する寝室 1 3 (子供部屋とも言う)とされている。

第三部屋である中間部屋 1 1 のうち、第二部屋 7 b 側の縁部(すなわち、共有スペース 1 2 の縁部)には上端部が天井に達しない高さに設定された手摺壁 1 4 が設けられている。つまり、手摺壁 1 4 の上方空間を介して、第二部屋 7 b のリビングルームと中間部屋 1 1 (共有スペース 1 2)とが連通した状態となっている。

共有スペース 1 2 には、手摺壁 1 4 と東側の外壁(後述する第三壁 2 3)に沿って L 型の机と椅子とが設置されている。そのため、例えば子供が机に向かっている際にも、第一部屋 7 a や第二部屋 7 b 側の人の気配を感じることができるようになっている。

【0038】

手摺壁 1 4 の上方に位置する天井 1 5 は、図 6 に示すように、第二部屋 7 b と、中間部屋 1 1 の上方に位置するものであり、水平に形成された箇所と、屋根 3 の勾配に合わせて傾斜した箇所とがある。また、屋根 3 の棟近傍の下方に手摺壁 1 4 が配置された状態となっている。

第一部屋 7 a 側の天井 1 6 は水平に形成されており、第二部屋 7 b と第三部屋である中間部屋 1 1 の上方に位置する上記の天井 1 5 は、第一部屋 7 a 側の天井 1 6 よりも高く設定されている。したがって、天井 1 5 の下方に位置する第二部屋 7 b は、上方に吹き抜けた状態となっており、開放感がある。

なお、和室 8 の天井は、第一部屋 7 a 側の天井 1 6 よりも高く設定されているので、住人が第一部屋 7 a から屋外空間側に目を向けた時に視界が広がるように感じさせることができる。

10

20

30

40

50

【0039】

屋根3のうち、第三部屋である中間部屋11（特に、共有スペース12）の上方に位置する箇所には、開閉自在に構成された天窓17が形成されている。この天窓17は、屋根3から天井15にかけて形成された筒状部17aの上端開口を開閉することができる。

また、筒状部17aは下方に向かうにつれて拡張するように形成されており、天窓17から取り込んだ光を広範囲に届けることができる。

【0040】

続いて、中間領域部4を主たる構成要素として発揮される建物1の機能について詳細に説明する。

この中間領域部4は、第二部屋7bに隣接し、かつ床面4aの高さ位置が第一層Aと略等しく設定されるとともに天井4bの高さ位置が第一天井高さ位置Dと第二天井高さ位置Eとの中間付近である第三天井高さ位置Fに設定されるものである。

【0041】

建物本体2は、図1～図4等に示すように、中間領域部4に面するとともに正面を向いて設けられている第一壁21と、中間領域部4に面するとともに第一壁21と直交して設けられている第二壁22と、を有する。

さらに、中間領域部4には、第二壁22とは反対側に位置するとともに屋根3を支持する屋根支持部25が設けられている。この屋根支持部25は、図1、図4に示すように矩形壁状（パネル状）に形成されており、第一壁21に対して直交する方向に配置されるとともに第二壁22と平行に配置されている。

すなわち、中間領域部4は、これら第一壁21、第二壁22、屋根支持部25と、上記の床4aおよび天井4bとによって囲まれている。

なお、屋根支持部25は耐力壁であり、屋根3を確実に支持することができる。また、本実施形態では耐力壁としたが、これに限られるものではなく、例えば一本または複数の柱状体でもよい。

【0042】

第一壁21は、中間領域部4と第二部屋7bとの間に位置している外壁である。また、この第一壁21も耐力壁である。

第一壁21の幅寸法は、建物本体2の間口寸法における少なくとも略半分を占める長さに設定されている。すなわち、上述のように、建物本体2は、間口寸法における西側の略半分に相当する部位が前方に突き出しており、東側の略半分に相当する部位に中間領域部4が設けられている。そのため、中間領域部4を構成する第一壁21の幅寸法は、建物本体2の間口寸法における略半分を占める長さに設定されている。

【0043】

図1～図4等に示すように、第一壁21のうち、第二壁22側が、窓の無い状態で屋内空間と屋外空間とを隔てる仕切壁部21bとされている。

仕切壁部21bは、この仕切壁部21bが設けられた箇所において中間領域部4と第二部屋7bとを完全に隔絶するものであり、視線や光、風を通さない建築材料によって形成され、内部には断熱材が充填されている。

【0044】

また、第一壁21のうち、仕切壁部21bの無い箇所は、屋内空間と屋外空間とを連通する第一開口部21aとされている。

第一開口部21aは、中間領域部4の床4a（ウッドデッキ）から天井4b（軒天井）までの高さと同様に、3.0メートル前後に設定されている。

第一開口部21aには、窓サッシ等の建具が取り付けられている。より具体的には、第一開口部21aの上端部には、ガラス窓である嵌め殺し窓が取り付けられ、その下方には、ガラス窓である掃き出し窓が取り付けられている。掃き出し窓の開閉は、引戸形式（引き違い戸）でもよいし、観音開き形式でもよいし、折戸形式でもよい。

なお、第一開口部21aは、高さ方向に大きくしたものである。すなわち、高さ方向に

10

20

30

40

50

開口を広げて採光や開放感を得ようとするものである。このような本実施形態の第一開口部 2 1 a によれば、建物 1 のエネルギー効率を高めるために、その面積を極力広げないようしながら、採光性や開放感を得ることが可能となっている。

【0045】

第二壁 2 2 は、中間領域部 4 と和室 8 との間に位置している。また、この第二壁 2 2 も耐力壁である。

第二壁 2 2 の幅寸法は、第一壁 2 1 の幅寸法の略半分の長さに設定されている。建物本体 2 の間口寸法が例えば 10 メートルであった場合、第一壁 2 1 の幅寸法は 5 メートルに設定されており、第二壁 2 2 の幅寸法は、その半分の 2.5 メートルとなる。つまり、建物本体 2 における正面西側の前方に突き出した部分は、第一壁 2 1 に対して 2.5 メートル分、突き出した状態となる。

10

なお、本実施形態では、建物本体 2 の間口寸法が 11 メートル前後に設定されている。そのため、第一壁 2 1 の幅寸法は 5.5 メートル前後に設定され、第二壁 2 2 の幅寸法は 2.75 メートル前後に設定されている。

このような寸法設定を鑑みれば、第一壁 2 1 は、建物本体 2 における正面西側の前方に突き出した部分に対して、かなり屋内空間側の奥まった位置に設けられた状態となっている。換言すれば、中間領域部 4 は、奥行きのあるスペースとして建物本体 2 の正面に設けられることになる。

【0046】

図 2、図 4、図 6 に示すように、第二壁 2 2 のうち、この第二壁 2 2 と第一壁 2 1 とで形成される入隅部側の端部には、屋内空間と屋外空間とを連通する第二開口部 2 2 a が形成されている。また、第二壁 2 2 のうち、第二開口部 2 2 a が無い部分は、窓の無い状態で屋内空間と屋外空間とを隔てる仕切壁部 2 2 b とされている。

20

第二開口部 2 2 a は、中間領域部 4 の床 4 a (ウッドデッキ) から天井 4 b (軒天井) までの高さと同程度に設定されている。つまり、第一開口部 2 1 a の高さ寸法と同程度に設定されている。

第二開口部 2 2 a には、窓サッシ等の建具が取り付けられている。より具体的には、第二開口部 2 2 a の上端部には、ガラス窓である嵌め殺し窓が取り付けられ、その下方には、ガラス窓である掃き出し窓が取り付けられている。掃き出し窓の開閉は、引戸形式(引き違い戸)でもよいし、観音開き形式でもよいし、折戸形式でもよい。

30

【0047】

屋根支持部 2 5 は、上述のように、矩形壁状に形成されて中間領域部 4 に設けられている。

より詳細に説明すると、屋根支持部 2 5 は、図 4 に示すように、建物本体 2 の東側に位置する外壁の延長線上に、当該延長線に沿って配置されている。すなわち、屋根支持部 2 5 は第一壁 2 1 から離間して配置されている。

そして、第一壁 2 1 と屋根支持部 2 5 との間は、中間領域部 4 と屋外空間とを連通するように開口しており、屋外空間から中間領域部 4 側に向かって光を差し込ませるための採光部 2 5 a とされている。

また、採光部 2 5 a と第一開口部 2 1 a は、直交し合うような位置関係で隣り合って配置されており、採光部 2 5 a と第二開口部 2 2 a は、互いに向き合うようにして配置されている。

40

つまり、採光部 2 5 a からは、屋外空間の南東側から第一開口部 2 1 a に向かって光を差し込ませることができるとともに、屋外空間の東側から第二開口部 2 2 a に向かって光を差し込ませることができる。

【0048】

一方、建物本体 2 の屋内空間においては、第二部屋 7 b が、第一壁 2 1 を介して中間領域部 4 と隣り合い、第三部屋である中間部屋 1 1 が、第一壁 2 1 との間に第二部屋 7 b を挟んだ状態で当該第二部屋 7 b に隣り合った状態となっている。

そして、共有スペース 1 2 の縁部に設けられた手摺壁 1 4 と、第一壁 2 1 の第一開口部

50

2 1 aとが、図 6 に示すように、第二部屋 7 b の特にリビングルームの上方空間を介して対向している。さらに、手摺壁 1 4 の上端面は、第一開口部 2 1 a の上端部よりも下方に位置しており、例えば共有スペース 1 2 の机で、椅子に座りながら作業を行う際に、目線の先には第一開口部 2 1 a があり、さらにその先に屋外空間がある状態となる。

【0049】

また、図 4 に示すように、第二層 B には、手摺壁 1 4 と直交して配置されているとともに屋外空間に面する第三壁 2 3 が設けられている。そして、この第三壁 2 3 には、屋外空間から屋内空間に向かって光を差し込ませるための第三開口部 2 3 a が形成されている。

すなわち、建物本体 2 の東側に位置する外壁が第三壁 2 3 であり、この第三壁 2 3 に、第三開口部 2 3 a が形成されている。

10

より詳細に説明すると、第三開口部 2 3 a は、共有スペース 1 2 に面して、かつ、共有スペース 1 2 に置かれた L 型の机よりも上方に配置されている。しかも、この第三開口部 2 3 a の上端部は、手摺壁 1 4 の上端よりも上方に位置している。これにより、この第三開口部 2 3 a から共有スペース 1 2 および第二部屋 7 b に光を差し込ませることができる。

【0050】

また、図 4 に示すように、第二層 B には、手摺壁 1 4 と平行して配置されているとともに屋外空間に面する第四壁 2 4 が設けられている。そして、この第四壁 2 4 には、第一壁 2 1 の第一開口部 2 1 a と対向する位置関係となる第四開口部 2 4 a が形成されている。

すなわち、建物本体 2 の北側に位置する外壁が第四壁 2 4 であり、この第四壁 2 4 に、第四開口部 2 4 a が形成されている。

20

より詳細に説明すると、第四開口部 2 4 a は、第二層 B にある中間部屋 1 1 の北側スペース（子供部屋）に位置する開口部である。中間部屋 1 1 は、上述のように仕切壁によって南北に仕切られており、この仕切壁には戸によって開閉可能な出入口が形成されており、当該出入口と第四開口部 2 4 a とが対向し合う位置関係となっている。

【0051】

以上のように構成された建物 1 は、採光や通風に係る機能を発揮することができる。

すなわち、中間領域部 4 は、比較的軒の出の長い屋根 3 の下方に設けられるものであるが、屋内空間と屋外空間との中間領域であるため、屋外空間から中間領域部 4 に対して光を差し込ませることができる。中間領域部 4 に差し込んだ光は、第一開口部 2 1 a から第二部屋 7 b に差し込まれ、第二開口部 2 2 a から和室 8 や第一部屋 7 a 側に差し込まれる。

30

また、季節によって太陽光の角度は異なり、夏季の日射角は高いため太陽光は屋根 3 の軒先部によって好適に遮られる。一方、冬季の日射角は低いため太陽光は部屋 7 まで差し込むことになる。

さらに、建物本体 2 の東側にある第三開口部 2 3 a から屋内空間（特に共有スペース 1 2 およびその周囲）に光を差し込ませることができる。

さらに、屋根 3 に形成された天窗 1 7 から屋内空間（特に共有スペース 1 2 およびその周囲）に光を差し込ませることができる。

【0052】

40

また、第一壁 2 1 の第一開口部 2 1 a を開放するとともに、中間部屋 1 1 において南北を仕切る仕切壁の出入口を開放し、さらに第四壁 2 4 の第四開口部 2 4 a を開放することによって、南北方向に風を通すことができる。

さらに、天窗 1 7 を開放することによって、上下方向にも風を通すことができるようになる。

また、図 5 に示すように、収納部 1 0 は二つの出入口 1 0 a, 1 0 b を備えるため、双方の出入口 1 0 a, 1 0 b を開放することによって、収納部 1 0 内にも風を通すことができる。

【0053】

以上のように構成された建物 1 は、本実施形態では平屋であるとしたが、これに限られ

50

るものではなく、複数階建ての建物であってもよい。この場合、中間領域部 4 は、建物本体における最上階のコーナー部に設けられることが好ましい。最上階よりも下方の階のコーナー部に設けられる場合には、上階構造（例えば中間領域部 4 の上方に位置する部屋など）を屋根 3 に代えて適用してもよいものとする。

また、第一部屋 7 a および第二部屋 7 b はリビングルーム等を有する居室 7 としたが、これに限られるものではなく、寝室や子供部屋等の部屋でもよい。

また、第一部屋 7 a と第二部屋 7 b は壁によって区切られた個別の部屋であってもよいし、必ずしも隣接していなくてもよい。つまり、第一部屋 7 a が基準となる第一天井高さ位置 D に設定され、中間領域部 4 に隣接する第二部屋 7 b が第二天井高さ位置 E に設定されていればよい。

10

【0054】

本実施の形態によれば、屋内空間と屋外空間との中間領域となる中間領域部 4 は、屋根 3 の下方に設けられているので、住人は、この中間領域部 4 を屋内空間の延長部のような感覚で利用することができる。そのため、屋内空間と屋外空間との間を行き来しやすくなり、屋内空間と屋外空間とが、あたかも一続きの空間であるかのような印象を与えることができるので、開放感を高めることができる。

また、第一壁 2 1 には、第一層 A と略等しい高さ位置に設定された床面 4 a から、第一天井高さ位置 D と第二天井高さ位置 E との中間付近である第三天井高さ位置 F に設定された天井 4 b までの高さ寸法と略等しい高さ寸法に設定された第一開口部 2 1 a が形成されているので、高さ寸法のある窓開口を確保できるとともに、中間領域部 4 と第二部屋 7 b との間から、例えば垂れ壁のように目線の上にある壁を無くすることができる。これにより、例えば高さ寸法の低い開口に比して採光性を高めることができるので、その分、第一壁 2 1 の位置を奥まった位置に寄せて配置することができる。そのため、中間領域部 4 の奥行きを広く確保することができるので、中間領域部 4 への雨の浸入を抑えるとともに採光性を確保でき、中間領域部 4 を利用する人に対して開放感を与えることができる。さらに、このような高さ寸法のある第一開口部 2 1 a によれば、中間領域部 4 や第二部屋 7 b にいる人への圧迫感を少なくすることができるとともに、視線を遮るものを少なくすることができるので、開放感を高めることができる。

20

また、手摺壁 1 4 と第一開口部 2 1 a とが、第二部屋 7 b の上方空間を介して対向し、第一開口部 2 1 a の上端部は、手摺壁 1 4 の上端部よりも上方に位置しているので、第一開口部 2 1 a を介して第三部屋 1 1 から屋外空間を見ることができる。そのため、第二部屋 7 b から屋外空間を見た時の開放感を高めることができるだけでなく、第二層 B に配置された第三部屋 1 1 から屋外空間を見た時にも開放感を高めることができる。

30

【0055】

また、屋根支持部 2 5 は第一壁 2 1 から離間して配置され、これら屋根支持部 2 5 と第一壁 2 1 との間が、屋外空間から第一開口部 2 1 a に向かって光を差し込ませるための採光部 2 5 a とされているので、たとえ第一壁 2 1 が中間領域部 4 における奥まった位置に設けられた場合であっても、第二壁 2 2 とは反対側に位置する採光部 2 5 a から第一開口部 2 1 a への採光を確保しやすい。すなわち、屋外空間の光を、採光部 2 5 a および第一開口部 2 1 a を介して屋内空間に差し込ませることができるので、屋内空間への採光性を向上させることができる。

40

【0056】

また、第二壁 2 2 に形成された第二開口部 2 2 a と採光部 2 5 a は、互いに向き合うようにして配置されているので、採光部 2 5 a から中間領域部 4 側に差し込んだ光を、第二開口部 2 2 a を介して、第二開口部 2 2 a の屋内空間側にある部屋（和室 8）にも差し込ませることができる。すなわち、屋外空間の光を、採光部 2 5 a および第二開口部 2 2 a を介して屋内空間に差し込ませることができるので、屋内空間への採光性をより向上させることができる。

【0057】

また、手摺壁 1 4 と直交する第三壁 2 3 に形成された第三開口部 2 3 a から屋内空間に

50

向かって光を差し込ませることができるので、第三部屋 1 1 はもとより、第三部屋 1 1 における手摺壁 1 4 の上方空間を介して第二部屋 7 b 側にも採光を確保できる。

【0058】

また、屋根 3 のうち第三部屋 1 1 の上方に位置する箇所にて天窓 1 7 が形成されているので、屋外空間の光を、天窓 1 7 から第三部屋 1 1 に差し込ませることができる。また、天窓 1 7 から差し込む光を、第三部屋 1 1 における手摺壁 1 4 の上方空間を介して第二部屋 7 b にも差し込ませることができる。そのため、屋内空間への採光性をより向上させることができる。

さらに、第一開口部 2 1 a から天窓 1 7 に向かって、またはその逆方向に風を通り抜けさせることができるので、屋内空間における通風性を向上させることができる。そのため、中間領域部 4 および屋内空間における開放感の向上に貢献できる。

10

これによって、屋内空間における居住の快適性をより向上させることができる。

【0059】

また、第四壁 2 4 には、第一開口部 2 1 a と対向する位置関係となる第四開口部 2 4 a が形成されているので、第四開口部 2 4 a から第一開口部 2 1 a 側、すなわち第三部屋 1 1 および第二部屋 7 b への採光を確保できる。さらに、第一開口部 2 1 a から第四開口部 2 4 a に向かって、またはその逆方向に風を通り抜けさせることができるので、屋内空間における通風性をより向上させることができる。

【0060】

また、第一壁 2 1 の幅寸法は、建物本体 2 の間口寸法における少なくとも略半分を占める長さに設定されているので、建物 1 全体において中間領域部 4 が占める割合を大きくすることができる。したがって、この中間領域部 4 を、住人に対して、単に建物 1 の一面に過ぎないという印象ではなく、その場に居つくことのできる住空間の一つとして印象付けることができる。

20

さらに、第二壁 2 2 の幅寸法は、第一壁 2 1 の幅寸法の略半分の長さに設定されているので、第二壁 2 2 と直交する第一壁 2 1 の位置を、屋内空間側に寄せて設けることができる。これによって、中間領域部 4 の奥行きを屋内空間側に深くすることができる。これによって、中間領域部 4 内を雨に濡れにくい空間とすることができるので、屋内空間の延長部として居心地よくすることができる。また、雨天時に洗濯物を干すスペースとしても利用できる。さらに、夏場には屋根 3 によって日差しを遮りながら、第一開口部 2 1 a から屋内空間に風を取り込むことができるので、屋内空間における居住環境を快適にすることができる。つまり、中間領域部 4 および屋内空間における居住の快適性を向上させることができる。

30

【0061】

また、建物 1 が平屋であるため、斜線制限等の法令に基づく高さ制限を過剰に気にすることなく、屋内空間における天井高を高くすることができる。そして、屋内空間の天井高を高くするのに伴って、第一開口部 2 1 a の高さも高くすることができるので、天井高が低いことによる圧迫感を軽減でき、開放感を高めることができる。

また、周辺住宅が複数階建てである場合には、周辺住宅の上階側から中間領域部 4 への視線を屋根 3 によって遮ることができるので、中間領域部 4 におけるプライバシーを確保できる。

40

【符号の説明】

【0062】

- 1 建物
- 2 建物本体
- 3 屋根
- 4 中間領域部
- 4 a 床
- 4 b 天井
- 7 a 第一部屋
- 7 b 第二部屋

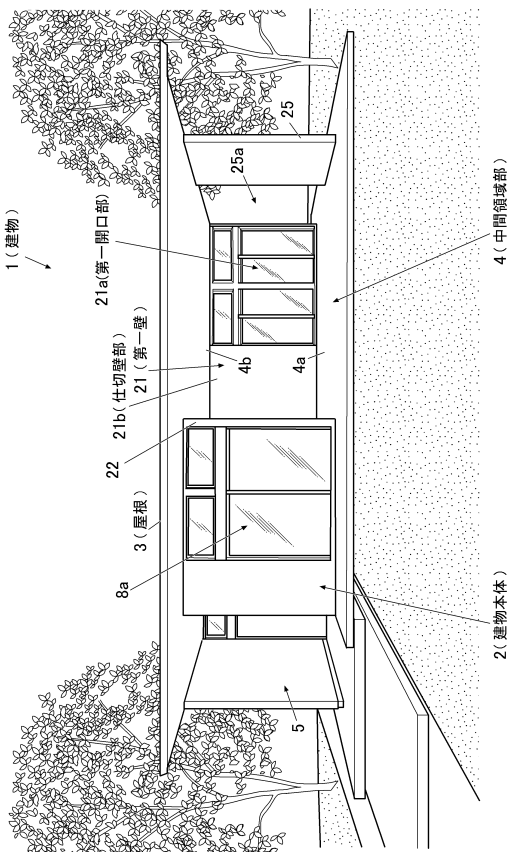
50

- 8 和室
- 10 収納部
- 11 中間部屋（第三部屋）
- 14 手摺壁
- 17 天窓
- 21 第一壁
- 21a 仕切壁部
- 21b 第一開口部
- 22 第二壁
- 22b 第二開口部
- 25 屋根支持部
- 25a 採光部
- A 第一層
- B 第二層
- C 第三層
- D 第一天井高さ位置
- E 第二天井高さ位置
- F 第三天井高さ位置
- G 第四天井高さ位置
- H 第五天井高さ位置

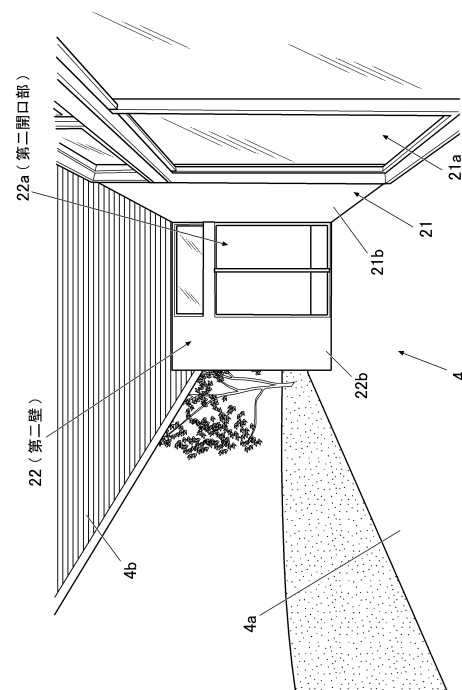
10

20

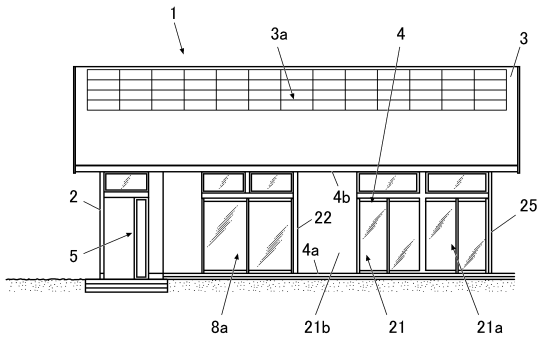
【図 1】



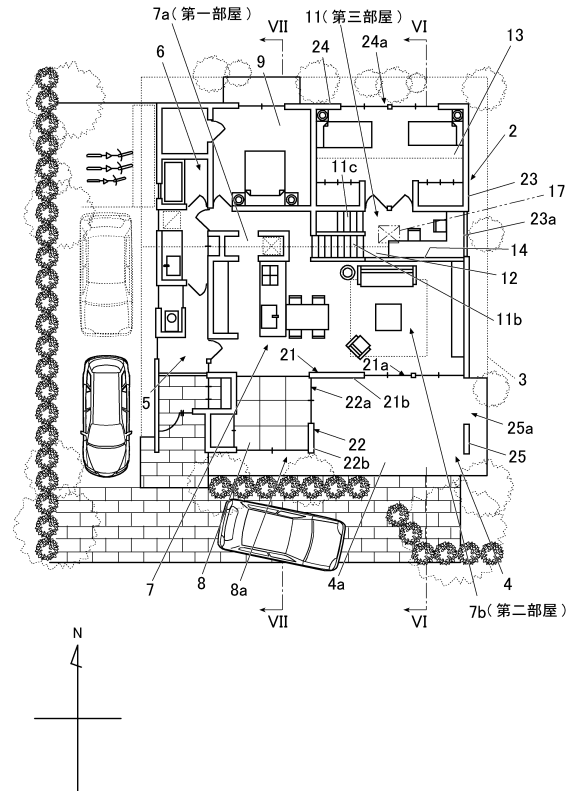
【図 2】



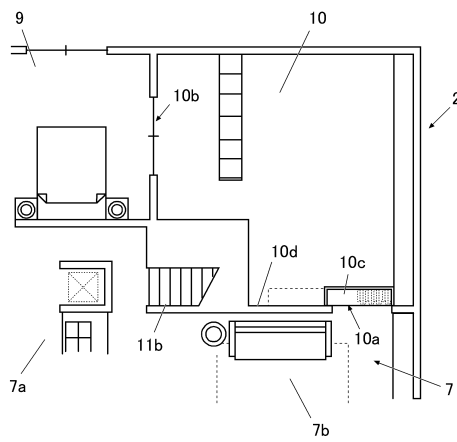
【図 3】



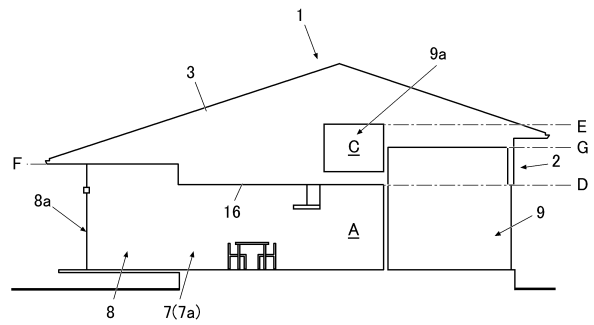
【図 4】



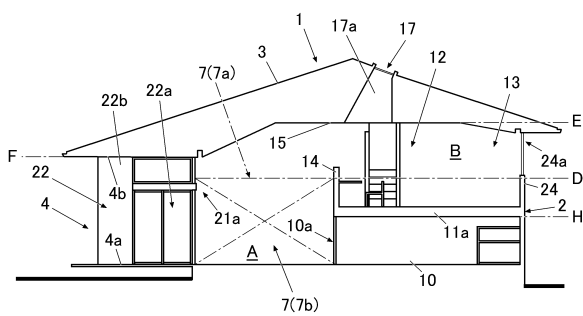
【図 5】



【図 7】



【図 6】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2010-007330 (JP, A)
特開2002-174038 (JP, A)
特開2000-248756 (JP, A)
特開2000-230326 (JP, A)
国際公開第2009/060117 (WO, A1)
特開2001-132246 (JP, A)
若松区塩屋 ひびきの平屋のモデルハウス誕生, 辰巳住宅のチラシ, 2016年 1月
平屋のプラン住宅をベースにご夫妻のこだわりを詰め込んだ家, ナガノの家, 2020年 1月
20日, URL, <http://www.nagano-ie.net/builder/23/house/9061.html>
心もはずむ、スキップフロアの家 新商品「tokotoko (トコトコ)」を発売 家族の絆をはぐく
む住まい, 三井ホーム ニュースリリース, 2012年 4月 6日, URL, <https://www.mi-tsuihome.co.jp/company/news/2012/0406.html>

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E04H1/00-1/14